

平成28年度サクラマス幼魚（スモルト）放流式



関係者による放流



放流されたサクラマス幼魚

5月25日（水）、老部川内水面漁業協同組合（坂本石蔵組合長）のサクラマスふ化場で、村内各漁協をはじめ県・村関係者等60名出席のもと、サクラマス幼魚（スモルト）放流式が行われました。

この放流事業は、主に沿岸海域でのサクラマスの水揚げ増大を図ろうと、昭和60年のサクラマスふ化場完成とともに毎年実施しているものです。

今回のサクラマス幼魚（スモルト）放流式では、平成26年8月中旬から10月上旬にかけて老部川に遡上した親魚と、3年間飼育した地産系

の親魚から採卵し、ふ化してからおよそ1年6ヶ月間飼育した、平均尾叉長13・1センチ、平均体重23・1グラムの幼魚約2万尾が関係者の手により放流されました。

なお、今年は全体で幼魚約6万6千尾、稚魚約22万9千尾の計約28万5千尾を、村内の河川に放流する予定となっています。

今後も継続的にサクラマス幼魚や稚魚放流を実施することで、沿岸海域での水揚げと河川回帰の増大に、大いに期待がもてるものと思われます。

夢託す 小さな苗に 大きな未来

～平成28年度東通村植樹祭～



お忙しい中での参加に感謝します



植樹の様子

6月11日（土）、尻労共有林において、平成28年度東通村植樹祭が行われました。

この植樹祭は、東通村緑化推進委員会（越善靖夫会長）が「森林保護と森林が作り出す水の循環による豊かな漁場づくり」を目的として、平成13年度から毎年実施しているもので、今年で16回目を迎えます。

参加者は、村内各漁業協同組合長、東北電力、東京電力ホールディングスのほか、関係者やボランティア

など約200名。

来賓の方々によるオオヤマザクラ12本の記念植樹と、参加者全員によるコナラ、ヤマモミジ、ブナ、トチ、ミズナラの5種の苗木550本の植樹が行われました。

森が作る栄養素は、雨水に溶け、川を通して海に流れ、海藻や、魚の餌になるプランクトンを育てます。

私たちの暮らしを支える豊かな森を守り、実り豊かな漁場を維持するため、今後も「育てる活動」に積極的に取り組んでいきます。